

令和5年度(2023年度)
学校自己評価報告書

令和6年(2024年)6月

学校法人電波学園
名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校

MEIGAISEN

《学校自己点検評価委員会》

委員長	小川 義則	(校長)
副委員長	伊藤 洋子	(教務部長)
実施責任者	服部 明芳	(教務科長/商業実務専門課程責任者)
委員	坂口 大介	(文化教養専門課程責任者/英語科)
	市石 浩久	(国際ホテル科)
	金井美香子	(ブライダル科)
	村瀬 聖治	(教務科)
	伊東 沙織	(国際エアライン科)
	金井 翼	(国際ホテル科)
	加藤 舞	(国際エアライン科)
	安田 英樹	(事務長)

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標・重点目標	P 3
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 4
	(1) 教育理念・目標	P 4
	(2) 学校運営	P 5
	(3) 教育活動	P 6
	(4) 学修成果	P 8
	(5) 学生支援	P 9
	(6) 教育環境	P 10
	(7) 学生の受入れ募集	P 11
	(8) 財務	P 12
	(9) 法令等の遵守	P 13
	(10) 社会貢献・地域貢献	P 13
	(11) 国際交流	P 14
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 15

I 学校の現況

- (1) 学校名 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校
- (2) 所在地 名古屋市千種区今池五丁目24番4号
- (3) 沿革
- | | |
|---------|--|
| 平成 3年4月 | 名古屋市千種区今池に名古屋外語専門学校を開校
文化教養専門課程 実用英語科を設置 |
| 平成 6年4月 | 商業実務専門課程 国際ビジネス科設置 |
| 平成 9年4月 | 実用英語科を外国語学科に改称 |
| 平成11年4月 | 外国語学科に英語コースとエアラインコースを設置 |
| 平成16年4月 | 国際ビジネス科をホテル観光科に改称 |
| 平成20年4月 | ホテル観光科にブライダルコースを設置 |
| 平成22年4月 | 新校舎(現1号館)完成
外国語学科を廃科し、国際エアライン科、英語科、
ブライダル学科を設置 |
| 平成24年4月 | 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校へ校名を改称 |
| 平成25年4月 | ホテル観光科を国際ホテル科に、ブライダル学科を
ブライダル科にそれぞれ改称 |
| 平成27年4月 | 国際エアライン科に航空ビジネスコースを設置 |
| 平成28年4月 | 国際エアライン科 航空ビジネスコースの学生募集を停止し
航空ビジネス科を設置 |
| 令和 2年3月 | 航空ビジネス科を廃科 |
| 令和 2年4月 | 英語本科(四年制課程)を設置 |
- (4) 学科の構成
- | | | |
|----------|----------|-----|
| 文化教養専門課程 | 英語本科 | 昼間部 |
| 文化教養専門課程 | 英語科 | 昼間部 |
| 文化教養専門課程 | 国際エアライン科 | 昼間部 |
| 商業実務専門課程 | ブライダル科 | 昼間部 |
| 商業実務専門課程 | 国際ホテル科 | 昼間部 |

(5) 学生数および教職員数

学生数:244名 教員数:専任14名、講師36名 職員数:2名

(6) 施設の概要

【1号館】

普通教室、来客ラウンジ、学生ラウンジ、モックアップ実習室、
エアポート実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、
英会話実習室、パウダー実習室、バンケット実習室、ゲストルーム、衣裳室、
ブライダルサロン、チャペル、ホテルフロント実習スペース、多目的ホール、
スタジオ、カウンセリングルーム、図書室、事務室

【2号館】

普通教室、パソコン実習室、保健室、校長室、職員室、講師室

Ⅱ 評価の基本方針

- ・学校としての組織的な取り組みや成果を調査し、現状や評価できる点、問題点および今後の方策や改善スケジュールを導き出す。
- ・教育水準の向上と保証を図る。
- ・教職員が課題意識を共有する。
- ・家庭や地域に支えられる開かれた学校を築き、相互理解を深める。
- ・「ありがとう」と周囲から感謝される学校づくりに役立てる。
- ・個人情報保護や安全確保に留意して作成する。
- ・具体的なデータに基づき客観的に評価する。
- ・学校自己評価を実施して終わりではなく、教育活動や学校運営の改善につなげる。

Ⅲ 教育目標・重点目標

- (1) 本学園の建学の精神は「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」である。それに基づき、校訓である「国際性・積極性・協調性」を教育信条にして知識・技術・態度を養うことで、社会の一員にふさわしい資質を育てる。
- (2) 本校の学生たちは、航空業界、ホテル業界、ブライダル業界などサービス業界への就職を目指している。それらの業界で求められる基礎知識、および専門知識を十分に教授する。また、グローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、豊かな創造力と応用力のある人財を育成する。
- (3) 本校は“ホスピタリティ教育”を軸に、社会の情勢、変革などを見極めながら毎日の学校生活の中で「建学の精神」を指導、実践する。
特に企業から歓迎される「人柄」、つまりチームにおける協調性や、組織に対する貢献を強く意識できる人財を育てる。

IV. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
○学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④ 3 2 1
○学校における職業教育の特色は定められているか	④ 3 2 1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
○学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・父母等・関係業界等に周知されているか	4 ③ 2 1
○各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

《現況》

当校では完全担任制を採用し、「専門スキル＋語学力＋人間力」を教育の軸として学級運営を行っている。具体的には学科ごとにディプロマポリシーを設定し、ホスピタリティマインドやチームワーク力、課題解決能力などを重視して育成。また、産業界のニーズに応えるために、企業担当者や父母等を交えて教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を開催し、教育理念や目標に反映している。

《課題と改善策》

これまでの教育理念を尊重しつつ、デジタル化社会や多様性の流れを十分に理解し、教育に取り入れることが急務である。また、本校の教育理念を広く世間に伝えることも、人間教育に力を入れている本校の使命とも言える。

《特記事項》

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
○人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
○教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

《現況》

年度始めに理事長および校長から全教職員に「運営方針」が発表される。その方針に従い、前年度中に計画された事業計画とともに学校運営に当たっている。意思決定等についても運営会議、協議会、各種委員会などの組織が確立され、有効に機能している。さらには電波学園中長期計画に基づき、ロードマップビジョンを年度毎に見直し更新している。

《課題と改善策》

現在も業務の効率化を進めているが、電波学園の「DX推進委員会」を通してワークフローシステムの導入を検討中である。

《特記事項》

特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
○関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
○関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
○職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
○資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

《現況》

- ・カリキュラムは各学科で設定されたカリキュラムポリシーに従って編成し、教育課程編成委員会等を通じて関連分野の企業や団体の意見を取り入れながら見直しを行っている。
- ・産学連携活動としてホテル、空港、児童英語教育の現場でのインターンシップを実施。また、ホテル施設見学、テーブルマナー講習、各業界関係者の講演など実践的な職業教育を提供している。
- ・英語学習においては、インプットのためのアクティブラーニング（学習領域）とアウトプットのための課外活動等（パフォーマンス領域）をバランス良く取り入れ、効果的にスキルの向上ができるようカリキュラム設定している。
- ・業界の実務経験者および現役人材を配置し、より専門的な学びができるよう努めている。国際ホテル科の専門科目はすべて現役のホテルスタッフと現場経験者が担当している。
- ・教職員の資質向上のため、各分野の関係企業の担当者による講話や電波学園教職員研修会を実施している。
- ・授業アンケートを前後期それぞれに実施し、より分かりやすい授業展開ができるよう取り組みを行っている。

《課題と改善策》

- ・教職員の資質向上のため、現在も各種研修会等を実施しているが、時代とともに変化する社会に対応するため、さらなる専門的な技術向上が必要であると考えている。
- ・英語教育については、専任教員と非常勤講師との勉強会を年に複数回設定し、互いのスキルの共有と課題解決をはかる計画をしている。

《特記事項》

国際エアライン科については、令和6年度から国内のインターンシップに加え、海外での職業体験ができるよう準備を進めている。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
○就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
○資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
○退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
○卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

《現況》

- ・本校では担任はすべて専任教員が務めており、「なりたいものになって卒業」を使命と考え、入学時から徹底的な就職サポートを行っている。また、学科を超えて各科複数の教員が連携してサポートするシステムも整っており、毎年高い就職実績を誇っている。令和5年度においても就職率は100%であり、各学科の業界就職率は国際ホテル科：96.4%、国際エアライン科：96.6%、ブライダル科：93.1%、英語科72.2%と中部地区トップレベルの就職実績を誇っている。
 - ・資格取得については英語力で実績が出ている。特に国際エアライン科は令和5年度卒業生のTOEIC平均スコアが636点であり、これは大学四年生（英語専攻）の平均スコア591点を上回っている。
- ※IIBC(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)DATA&ANALYSIS2023 参照
- ・退学率は6.97%と目標の5%を上回ってしまった。退学理由はメンタル不調、経済的困難、勉学意欲の喪失など様々である。

《課題と改善策》

退学率を4%程度まで引き下げたい。この対策として学生面談の数を増やし、家族、スクールカウンセラーとの連携をさらに強化していく。昨今の状況を見ていると、学校を退学することについて、本人や家族にとってのハードルが低くなっているように思われる。もちろん、金銭的な理由によるものは、本人や家族の本意とは違う場合もあるが、「価値観」が大きく変わってきているのかもしれない。今まで以上に学びの質と学校生活の満足度を上げるとともに、退学の兆候を早期に発見するよう担任力を上げていく必要がある。

《特記事項》

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○進学・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
○学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
○父母等と適切に連携しているか	4	③	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
○高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1
○関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか	4	③	2	1

《現況》

- ・就職指導については、各科において企業別や職種別に徹底的にサポートを行っている。具体的には入学当初からキャリアガイダンス等のカリキュラムを取り入れ、就職活動の啓蒙を行っている。1年次後期から学内企業説明会を開催し、授業後の面接対策補講やカウンセリングは内定を得るまで手厚く行っている。また、毎年教育懇談会を開催し、父母等にも各業界の特徴を理解いただきながら指導にあっている。
- ・課外活動は短期海外留学、各種インターンシップ、ホテル見学会やテーブルマナー研修、リゾートウェディング研修、歌とダンスのパフォーマンスサークル「青春ガールズクワイア」のライブ活動など、多方面に視野を広げ経験値を増やすための支援体制を整えている。
- ・複数の高等学校と提携し、ビジネスマナーやオフィスメイク、就職面接対策などの依頼講座を担当し、高校生の職業教育の一助を担っている。

《課題と改善策》

学生の経済的支援については電波学園が行う「ありがとう奨学生制度」、「電波学園ファミリー奨学生制度」がある。また日本学生支援機構奨学金制度については専門の担当者を配置しサポートしている。しかしながら昨今は経済的に学費支弁が困難な学生も年々増加している。金銭的不安を抱えている学生は学校生活を続けるモチベーションを下げる場合があり、勉学や将来の返済に負担が少ない経済的支弁の方法を、それぞれの家庭環境を踏まえながらアドバイスしている。

《特記事項》

特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
○防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

《現況》

- ・施設は各分野の現場を想定した実習室を完備している。具体的にはエアポート実習室、モックアップ実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、ブライダルサロン、チャペル、バンケット実習室などである。
- ・インターンシップについてはホテル、空港(グランドスタッフ)、児童英会話教室、小学校(授業補佐)など、実際の現場でプロから学べるよう実習先を確保している。また、毎年英語科と国際エアライン科で実施している短期海外留学(海外研修)、ブライダル科と国際ホテル科で実施している国内宿泊型研修は各学科の特色を生かしたものであり、職業実践教育の観点ではクオリティの高いものである。

《課題と改善策》

令和5年度も全学科で留学、研修を実施することができた。国際ホテル科とブライダル科は今年度も国内研修を実施。単に旅行型の国内外研修ではなく、日頃の学びをアウトプットするためのオーダーメイド研修は本校の自慢でもある。教育環境はハード、ソフトともに競合他校と比較しても遜色無いものであると考えているが、常に新しいものを取り入れ、ブラッシュアップする意識を忘れないようにする。

《特記事項》

平成30年度からシェイクアウト（地震防災）訓練を実施。令和5年度より、学校全体の行事として、全館放送で実施（毎年9月1日の予定）。

また、本校は災害時の緊急避難場所等として地域社会に協力する旨の「大規模災害時における地域と事業所との支援協力に関する覚書」を結んでいる。

（7）学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
○高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	④	3	2	1
○学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
○学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	④	3	2	1
○学生納付金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

《現況》

- ・高校の進路指導室訪問、高校での進学説明会等で、就職実績、資格取得状況等の正確な情報提供を行っている。オープンキャンパスでは参加者に最新の就職内定実績等を配布し、リアルな情報が伝えられるよう心掛けている。また、学校案内パンフレット、ホームページに掲載する資格、就職等は何年度の実績であるかを誠実に示している。各業界に就職した卒業生を招いてのスペシャルオープンキャンパスも、本校での学びが社会でどのように生かされるかを理解いただくための良い機会であると考えている。
- ・学生納付金については、国内外の研修費も含め、在学中に徴収する納付金全てを募集要項に記載、卒業までの費用を分かりやすく表示している。

《課題と改善策》

- ・大学、同種他校など競合校が多く、学生募集には苦戦している。特に外国語を主として学ぶ文化教養専門課程の英語科、国際エアライン科は大学と競合することも多い。大学全入時代を迎え、高校卒業後の進路選択において大学進学者が年々増加する中、専門学校としての役割をしっかりと確立することが生き残りの鍵であると考えている。本校の知名度、教育内容、実績はまだまだ世間に広く知られていない。広報戦略については、電波学園、学内において研修会、勉強会を開催しながら、学生募集活動の強化をはかっていく。

- ・学生納付金については評価項目としての「妥当なものか」の判断は難しい。物価高騰の中において学費は数年間据え置きしており、教育環境の充実を含めると、単純に他校との金額比較だけでは答えを出せない。

《特記事項》

学生募集時の情報提供は正確かつ誠実であるべきと考えている。広報と教育内容が乖離しない、入学者の卒業後まで考えた真摯な学生募集でありたい。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

《現況》

収入、支出を予算化することにより、収支バランスの把握に努め、経費削減を常に意識している。

《課題と改善策》

- ・昨年度と比べ在籍者数が減少したことにより、教育活動収支差額が必ずしも良いとは言えない状況であるため、人件費を含めた経費の見直し、安定した入学生確保が重要となる。
- ・中長期的な財務基盤の安定について、今後の学内組織の変更、教職員の構成の見直し、クラスの再編成等の施策を実施していく。

《特記事項》

会計監査は、毎年1回公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、貯蔵品等の証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による監査(年3回)を行っており、適正に実施されている。

財務情報は、私立学校法に従い、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経たのち学園のWebサイトにて「事業報告・財務情報」を毎年更新公開している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
○自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

《現況》

- ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営を行っている。
- ・個人情報に関するセキュリティポリシーに従って個人情報の管理等を行っており、個人情報に関する内部監査を実施している。
- ・自己評価結果を公表している。

《課題と改善策》

毎年各部門と協力し、自己評価の実施に臨んでいる。内部からは見えにくい改善点については、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会の意見を真摯に受け止めながら、より良い教育環境づくりに努めたい。

《特記事項》

学園の教務委員会において、「学園教職員 SNS 使用時のガイドライン」、「学園各校の公式 SNS アカウント利用担当者に対するガイドライン」を設定し、そのガイドラインに沿って SNS 運用を実施している。委員会において作成された「個人情報保護ガイドライン」に則って運営を行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
○学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

《現況》

- ・高校との連携によるキャリア教育・職業教育の一環として、複数の高校からの依頼で高校生向けに「マナー講座」、「接客英語講座」、「秘書検定準一級面接対策講座」、「就職面接対策講座」、「オフィスメイク講座」等を実施。また、本校の実習室を使用しての「見て、感じて学ぶお仕事 One Day Seminar」も開催している。
- ・SDGs の一環としてフィリピンの NGO である KILUS 財団と提携したフェアトレードを継続して実施。商品は毎年エアライン短期留学の際、現地で生産工程を見学しながら直接買い付けを行っている。
- ・フィリピンマニラ近郊の貧民地区トンドを訪問し、幼稚園でのボランティア活動を行っている。
- ・令和 4 年度から小学生を対象とした「KIDS お仕事 Summer School」をスタート。毎年 8 月に開講し、キャビンアテンダント、バーテンダー、英語教師、ブライダルなどの体験ができる。令和 5 年度は延べ 1 6 9 名の参加があり、大好評であった。

《課題と改善策》

本校の教育方針である「ホスピタリティマインド」のもと、社会貢献・地域貢献できるように、さらに実力をつけていきたい。

《特記事項》

国際エアライン科の学生で構成されている、歌とダンスのパフォーマンスサークル「青春ガールズクワイア」は、中部国際空港、アスナル金山、星が丘テラスなどの商業施設から依頼され、各施設を盛り上げるためのオーダーメイドライブも行っている。

(11) 国際交流

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2	1
○留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
○留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
○学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

《現況》

- ・国際交流については法人事務局国際交流室が主導で行い、依頼に応じて適宜対応している。令和5年度は韓国新丘大学から短期留学生を受け入れ、国際交流を行った。
- ・LPU 大学（カビテ校）とは、年に一度フィリピンの大学内で国際文化交流を行っており、信頼関係を構築している。
- ・提携を結んでいる Niagara College Canada（カナダ）、Southern Cross University（オーストラリア）、Burton and South Derbyshire College（イギリス）には、毎年本校の学生が長期留学をしている。

《課題と改善策》

これまで留学生の入学資格は N2 以上としてきた。しかし、ネパール、スリランカ、ベトナムなど漢字圏でない留学生にとって、N2 取得は難関である。令和7年度入学生から入学基準である N2 の入学資格を外す。しかし、留学生の日本語力が低い場合は、本校の授業進行のスピードに沿うことができない可能性が高い。留学生受け入れの際には日本語能力確認テスト等を行い合否を決定する。今後入学の増加が予想される留学生のため、日本語力向上のためのサポートシステムの構築が急務である。

《特記事項》

特になし

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校はホスピタリティ教育を軸にグローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、チームで活躍できる協調性、豊かな創造力と応用力のある人材の育成を目標としている。これらを日々の教育に落とし込むことで、目標が達成できるよう努めている。学びの結果として令和5年度は以下の成果や実績をだすことができた。

【就職】

例年通り就職率100%であることに加え、各学科の業界への就職率は高く、国際ホテル科：96.4%、国際エアライン科：96.6%、ブライダル科：93.1%、英語科：72.2%（英語を使う職種に就職）と高い就職実績となった。客室乗務員には8名が合格し、中部地区の同種専門学校と比較して圧倒的な実績となった。また、英語科では北欧への海外就職もかなえることができた。「なりたいものになって卒業」のコンセプトを実現していると考えている。

【資格】

英語については英検準一級6名、TOEICスコア900点以上4名を含め、就職活動時に求められることが多い600点以上を62名が取得。また、全学生中56.1%がTOEIC500点以上を取得した。

※ブライダル科は英語科目がないため、受験していない。

また、令和5年度から特別講座として取り入れた資格、「IATA DANGEROUS GOODS CBTA 7.5」は受験した21名全員が合格し、空港の地上スタッフとしての専門知識を得る機会を増やすことができた。

【海外留学／長期・中期・短期】

英語本科はイギリス、カナダ、オーストラリアの提携先大学で学ぶ長期留学、英語科はイギリスへの中期語学留学、国際エアライン科はフィリピンでCAトレーニングや大学との文化交流を行う短期留学を実施し、多様な価値観と職業理解を深めた。

【国内研修】

国際ホテル科は関東地方の有名クラシックホテルを巡り、施設見学や講話を聞いてホテル業界への知識を深めた。ブライダル科は沖縄のホテルのチャペルを貸し切ったリゾートウェディングを開催し、実践力を磨いた。

【インターンシップ】

帝国ホテル東京、ヨコハマグランドインターコンチネンタル、リゾートトラストなどのラグジュアリーホテル、フジドリームエアラインズでのグランドスタッフ、岩倉北小学校、英会話スクールでの英語教育サポートなど、日頃の学びをアウトプットできる場を多く提供した。

【社会貢献活動】

小学生向け「夏休みキッズお仕事体験スクール2023」の開催、フィリピンのNGO（KILUS 財団）と連携したフェアトレードプロジェクトの継続、高校依頼の「ビジネスマナー講座」、「オフィスメイク講座」、「接客英語講座」などの開催、フィリピンマニラ・トンド地区での幼稚園ボランティア、青春ガールズクワイアのオーダーメイドライブなど、地域とつながる活動を続けている。

成果、実績から翻って、退学者率は6.97%となり目標の5%以内をクリアすることができなかった。金銭的な理由や精神的なものによる退学は、面談を強化しても抜本的な対策を見出すことができない。数ある学校の中から本校を選んで入学してきた学生を明るい未来につなげられるよう、個別面談、スクールカウンセリングの推奨、ご家族との連携等を通して根気強くサポートしていきたい。

総合評価結果として、令和5年度は前年度と比較して就職内定実績の業界就職率が向上、資格は英語について TOEIC スコアの上昇が見られ、退学者は前年と比較して微減となった。教育活動と同じくして学校運営の中核である広報活動に関しては、大きな成果を得ることができず、入学生数の微増にとどまった。募集活動の現状は同種他校間との競争が年々激化しているのに加え、大学の外国語系学部とも競合している。今後は減少していく18歳の高校生へのアプローチだけでなく、海外からの留学生をどうやって受け入れるのかが重要な課題となってくる。社会変動を見据えながら本校の使命、立ち位置を常に見直していく必要がある。しかし、どのような形であれ、学園、本校の方針を変えることなく、且つ、どんな入学生に対しても満足度の高い教育を提供してくという命題に変化は無い。難しいミッションではあるが、きめの細かい指導を続けていくために、教職員一同創意工夫と努力を続けていく。

以上